ICTを使った最適な健康管理、医療サービスの実現を目指して

ＩＣＴ（情報通信技術）社会への期待

インターネットや携帯電話の普及により、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用したサービスが広がりを見せています。

ＩＣＴは医師不足や少子高齢化への対応、地域の安全、安心の確保や新たなネットワークづくりなど、幅広い場面で課題解決やサービスの向上を実現できる可能性があり、皆さんがＩＣＴの恩恵を身近に感じられるよう、国も様々な取り組みを後押ししています。

本年度、地域の喫緊の課題となっている「医療」「介護」「福祉」「防災」「防犯」などの分野で、ＩＣＴを活用したサービスにより解決を図ろうとする「地域ＩＣＴ事業」のモデル事業として国から採択を受け、留萌市と旭川医科大学、北海道などが連携・協力し、健康管理、医療支援サービスに取り組んでいます。

ＩＣＴを活用した未来型の健康ライフと健康、医療情報の共有により、限られた医療資源を有効に結び付け、安心した地域社会が実現することを目指しています。

いつでも、どこでも健康管理『ウェルネットリンク』

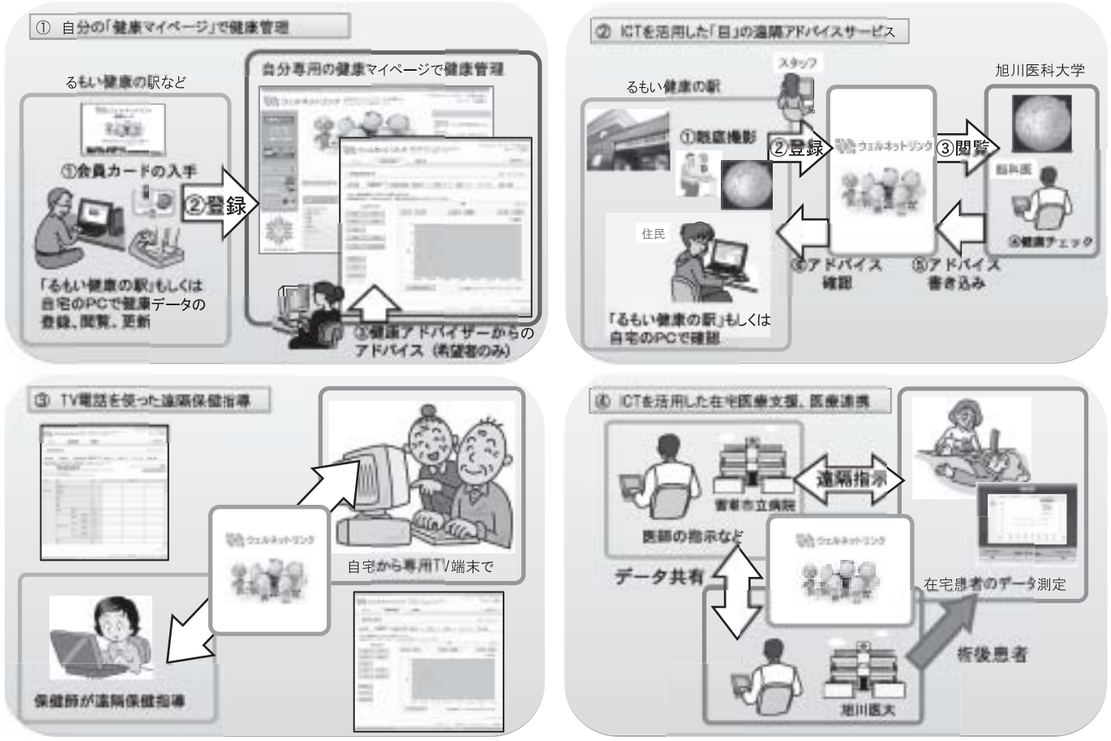
本モデル事業は、旭川医科大学が開発した、インターネット上で健康、医療情報を管理する「ウェルネットリンク」というサービスを使って、登録された健康情報を用いて、複数の専門家からの健康アドバイスや、医療機関相互の連携サービスなどにも活用を広げようとするものです。

健診結果や健康データ結果などの健康情報は、生涯にわたって蓄積・保存し、その情報を活用することで、みなさんの健康ライフに役立てていくことができます。

たとえば血圧や体重など、決まった時間に決まった状態で測定し、記録することで皆さんにとって貴重な自分の「基準値」を知ることにつながります。

まず自分の今の健康状態を適切に把握し、そのためにはしっかり健診を受けてその情報を自分で管理することが大切です。インターネットにつながるパソコンさえあれば、いつでも、どこでも閲覧でき、入力が可能です。

ICTを活用した留萌サービスモデル事業



ＩＣＴを活用した留萌サービスモデル事業

このほか、留萌独自のモデル事業として、健康の駅で撮影した眼底画像をインターネット上で旭川医科大学の眼科医が閲覧し、遠隔地から「目」の健康アドバイスを行うサービスや、保健師や運動指導士からのインターネットでの健康アドバイス、在宅患者と市立病院、旭川医大間を専用のテレビ電話端末で結び、血圧や血糖値などのバイタルデータ（生体情報）のチェックや、遠隔指導などの医療支援サービスをモデル的に展開しています。

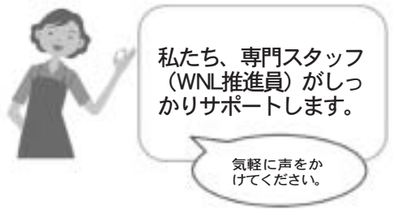
特に「目」の遠隔健康サービスは、自覚症状が出ている前の段階で早期に異変に気づき、適切に医療機関へ誘導できるとても有効なサービスで、これまで、利用者の約6割に何らかの異変を疑い、約3割の方を医療機関へ誘導することができました。（1月現在）ＩＣＴを使って遠隔地にいる専門医とデータを共有することにより、実現できたサービスです。

高齢化社会を迎え、医療機関に何度も足を運ぶことが困難な方々などが、自宅に居ながらＩＣＴを使って定期的に医師の経過観察や指導を受けたり、あるいは、治療の際、蓄積された健康データなどを引き出せるなど、データがしっかり蓄積、保存されていることで、健康管理から医療サービスまで利用できる可能性が広がります。

このように、ＩＣＴを使った未来型の健康管理、医療サービスが実現できる時代がもうすぐそこまで来ています。

会員登録と健康情報の代行入力

自宅にパソコンがなくても大丈夫！



るもい健康の駅、はーとふる、留萌市立病院などに専用のパソコンを設置し、操作の説明や代行して登録します。（3月末まで）

問い合わせ先　市・コホートピア推進室（るもい健康の駅内）☎ 43･8121